



音の話題  
**TOPICS**



撮影／佐藤元一

▲整備されて間もないミキサーを、早くも平足のように使いこなしつつ、スタジオを回覧していたNHKの原簿係チーフエンジニア。



▲写真右がメインパネル。すべてのチャンネルをここへ呼び出して細かな調整を加えることができる。写真はサラウンド時の音像定位調整モード。写真左は、裏ワザの1つ、お絵かきモード。



**衛星Bモード放送が  
フルデジタル音声に！  
NHK「電子要塞」に潜入！！**

ミキサーというのは、おもにフロアの音を扱う現場で使われるモノである。様々な音素材をとり込み、ませ合わせて最終的な音声信号を取り出すものである。一般にはなじみの薄い機械であろうが、ここでそのミキサーの最新機種をレポートするのにはワケがある。ここで紹介するモデルの導入によって、我々が日頃楽しんでいるNHK衛星放送のBモード、すなわち48kHzデジタル放送の音質が劇的に変化するだろうと思われるからだ。

これまでの衛星放送の番組の音声は、最終的にはデジタルで送り出されるものの、制作・編集の段階はすべてアナログ信号で行っていた。

今回NHKのCU-226スタジオに導入された機TOAの手になる「111000」なるミキサーは、これだけ大規模なものとしては国内初という、完全デジタル・ミキサーである。

このスタジオは、衛星放送Bモード番組の制作・送り出し用につくられたもので、前述のミキサーがその中核となる。

例えば、海外でデジタル録音されたコンサート、という番組素材があった時、これまではその編集制作時に、一度アナログ変換してからミキシングし、さらにもう一度デジタル変換してからオン・エアしていた。しかし、このミキサーの登場で、デジタル録音されたソースは、デジタルのまま調整、加工され、デジタルで送り出されるという、実はずデジタル放送が可能となった。

一旦アナログ変換する段階が省けるので、これは飛躍的に音質が向上する、はずだ。とにかく、そんな画期的なものは一目見ておこうと、NHKまで出かけていった。

で、上の写真のようなミキサーと「対面」となった訳だが、タッチパネル（進行の自動現金引き出し機でおなじみの、ディスプレイがそのまま操作キーになるやつ）が多

用されており、そのディスプレイ上に様々な機能のウィンドウが開く様子は、マツキントッシュを思わせる。そう、実際にこれはある機能に特化した巨大なコンピュータなのだ。だから裏ワザとして「テトリ」さだつてきてしまふ。

このスタジオで制作された第一弾の番組が、92年大晦日の深夜1:30-3:00に放映されたベルリン・フィルの「シルベスター・コンサート」だった。ここで早くもフル・デジタルの威力爆発。格調高いコンサートがひとときわみずみずしく楽しめた。

フルデジタル  
第一弾は肥田大晦日の  
ベルリンフィル・  
シルベスター・コンサート



▲CU-226スタジオには、このミキサーの他にも最新の機材が設置されている。パナソニックのCDプレーヤー、パイオニアのトリプリーヤーなど、CDの録もいくつかある。

集中連載

# ミニコンポとコンポはどこが違う?

1993年2月1日発行(隔週刊日発行)第20巻第4号通巻第500号 1993年1月20日第三印刷部発印

# レコパル

音を楽しむ総合マガジン NO.4

音楽好きの  
データベース

CD  
ガイド

FM・BS・TVメディア別2週間音楽情報 2/1-2/14

定価290円



速報!  
ポータブル  
DCCプレーヤー  
据え置きタイプ  
MDデッキ

床に置くより

かっこいい!

部屋も広びろう!

壁かけ

# 小型スピーカーの

# すすめ

●生活音質主義コンパクトハンドリングレポート

この機能があるかないかでは通勤・通学に差がでる  
ヘッドホンステレオ選び

聴きながら体が動いてしまう人の  
コードレス・ヘッドホン

VHSとコンパクトデオのダブルデッキが  
可能にした新エアチェック&ダブルング術



SOUND HOUSING

音の暮らしか  
家具を  
ラックにしたら  
部屋の  
イメージが新

ロケっぴい歌なり  
ニール・ヤングを聴いてごらん  
ニール・ヤングでも聴きな  
プラザ・ミュージック入門  
夜のひとときを聴きたくなる  
ロンドン生まれのジャズ  
♥ラブソングならおまかせ  
バレンタインデーカタログ